



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 70 号 2010.6.1 発行 社会政策研究所

=====

昨日（5/31）の内閣府の「障がい者制度改革推進会議」、第1次意見書のとりまとめ作業が続行されました。途中罷免された福島前担当大臣が顔を出し、涙を浮かべてあいさつをされました。障害者制度改革には一方ならぬ思いがあったようです。素案に対し、出席委員からは多くの意見が出されましたが、第1次だけでなく第2次意見もあるのだからと、やや強行とも思える集約がなされました。それと、意見はペーパーで出してくださいと「文書主義」も徹底しています。その中で知的障害にも配慮したわかりやすい意見書もつけようということが実現しそうです。次回6月7日に最終とりまとめの会議があり、閣議決定のプロセスにいたる見込みです。【kobi】

障がい者制度会議、福島氏罷免で平野官房長官が担当

2010年05月31日キャリアブレイク

社民党の福島瑞穂特命担当相が5月28日に罷免されたことを受け、内閣府の「障がい者制度改革推進会議」の担当相を平野博文官房長官が兼任した。

内閣府によると、福島氏が担当した業務はすべて平野官房長官が事務代理として行うという。内閣府の関係者は、「平野官房長官が（福島氏のように）毎回会議に出席するか分からないが、（福島氏の罷免による）障がい者制度改革推進会議への影響はそれほど大きくないだろう」と話している。

今年になって大阪手をつなぐ育成会にパソナグループの方々が時々来られます。大阪・関西の知的障害者に何か支援できないか。そんな提案に大阪育成会と一緒に思案中です。先行する東京の取り組みが東京新聞に紹介されました。【kobi】

オフィス街から障害者雇用支援 大手町に『アート村工房』

東京新聞 2010年6月1日

ミシンや作業台が並ぶ「アート村工房・大手町」=千代田区大手町2のパソナグループ本部で



障害者の雇用を促進しようと、人材派遣大手「パソナグループ」（南部靖之代表）は一日、千代田区大手町の本部ビル一階に「アート村工房・大手町」を開設する。オフィス街の一階でガラス張り。「地の利を生かし、多くの人に足を運んでほしい」と工房関係者は期待している。（梅野光春）

施設は広さ約三十六平方メートルで、業務用ミシン三台と作業台のほか商品の展示スペースを設置。障害者を含め十人前後が縫製作業や

小物の販売をする。作業の様子が外からもうかがえる。当面は履かない靴の中に入れる「シューズキーパー」を製作し、今後はバッグづくりなどに取り組むつもりだ。

運営するのは同グループの「パソナハートフル」(深沢旬子社長)で、アート村工房を武蔵野市や千葉県などに二〇〇六年以降、三カ所開設し、障害者の描いた絵画をデザインした紙袋などを製作・販売している。他施設も合わせ、同社では約百五十人の障害者が働いている。

今回、大手町に開設することで、障害者の通う学校や都心に事務所を構える企業の関係者が見学しやすくなるため、深沢社長は「楽しく仕事をする様子を見て、障害者の就業支援に役立ててほしい」と話す。

オープンに先立つ三十一日には開所式や工房の見学会があり、学校関係者ら約百人が出席した。工房長の海川正子さん(51)は「私も含め、障害者にとっていい環境をいただいた。新たにくる人たちを自立できるよう育成したい」と話していた。

たまにブログでもとりあげた「**貧困ビジネス**」。新聞に少し詳しい記事が掲載されました。それと、上海万博での善意の悪用の記事を紹介します。【kobi】

【貧困ビジネス天国】「障害者加算まで搾取」受給女性ら5回転居

産経新聞 2010年6月1日

【写真説明】逮捕された藤原克行容疑者らが勤務していた「エイブル」昭和町店=大阪市阿倍野区



NPO法人「いきよう会」(解散)による生活保護費詐取事件で、保護費を搾取されていた受給者の女性(43)が「障害者加算まで吸い尽くされた」と話していることが31日、大阪府警捜査4課への取材で分かった。女性らが計5回転居を繰り返していたことも判明。府警は同会元代表で暴力団関係者の由井寛容疑者(51)が主導し、囲い込んだ女性らの保護費をあらゆる手段で搾取しようとしていたとみている。

捜査関係者などによると、女性は平成17年11月ごろ、知人を介して由井容疑者と知り合い、生活保護の申請と一緒に出向くなど支援を受けていた。しかし、手数料などの名目で、敷金だけでなく障害者加算まで大半を搾取されていた。

女性らは17年12月以降、少なくとも5回の転居を繰り返しており、保護費を狙った由井容疑者の指示だったとみられる。

また、大阪市によると、由井容疑者らNPOのメンバーが同行していた保護申請者は17年以降、複数の区で約10人おり、虚偽申請がないか確認するという。

女性に転居先を斡旋(あっせん)していた不動産会社「エイブル」昭和町店元店長の藤原克行容疑者(32)らは、「契約を多く結べばボーナスが上がり、自分たちの利益になると思った」と供述していることも判明。由井容疑者が保護費を詐取するために、本来10万円の敷金を20万円以上水増しして請求していたことを把握しており、転居先マンションの家主には「金が入るからいいやん」と入居を持ちかけていたという。

エイブル経営管理本部は「ご迷惑をおかけし、誠に申し訳ございません。現在事実関係を確認しており、詳しいことはコメントできません。従業員の方などについては今後の

捜査の進捗（しんちやく）を見ながら対応していきます」とコメントした。

あけぼのの会詐欺容疑の男「代表にそそのかされた」

自称NPO法人「あけぼのの会」（旧あしたばの会北大阪支部）の代表らが生活保護費を詐取したとされる事件で、同会代表の畑勲容疑者（47）らと共謀し、うその転居申請をしたとして逮捕された無職、山本一人容疑者（46）が今年3月、大阪市に「代表にそそのかされ、うその引っ越しをした。家がないので助けてほしい」と困窮ぶりを訴え、再び生活保護を申請していたことが31日、市関係者への取材で分かった。

府警捜査2課は、畑容疑者が転居に伴う敷金（礼金）扶助をだまし取った後、山本容疑者との接触を断ったとみており、同会の活動が敷金狙いの貧困ビジネスだった疑いがさらに強まった。

捜査関係者によると、山本容疑者は昨年10月、大阪市内で勧誘され、畑容疑者の同行で西淀川区に生活保護を申請。受給が決まった翌11月、神戸市灘区に転居すると偽り、敷金扶助など計約36万円を受け取った。

山本容疑者は灘区でも生活保護の手続きを取り、12月は家賃や生活費の支給を受けたが、今年に入って所在が分からなくなり、神戸市が2月11日付で保護打ち切りを決定していた。

大阪市関係者によると、山本容疑者は3月上旬になって、神戸市への転居は虚偽だったと淀川区に打ち明けて、再び保護を申請。保護を受け大阪市内のマンションに入居した。

【上海万博】開幕1カ月、伸びぬ入場者800万人 障害者装うニセ車いすも横行

産経新聞 2010.5.31

(前半略)

目標数を大きく下回っているとはいえ、予約券方式の中国館をはじめ、日本館やドイツ館、スイス館など人気パビリオンでは連日、長蛇の列ができ、平日でも3時間から4時間待ちは避けられない。このため、障害者や幼児連れの入場者のために用意された優先ゲートが“不正”に使用されるケースが報告されている。

31日付の上海紙、新聞早報は、3歳以下の幼児向けに会場で貸し出しているベビーカーに小学生とみられる子供を乗せ、優先入館する親が後を絶たないと報じた。また、車いすの入場者に3、4人が付き添って優先ゲートに並び、入館後に車いすから「障害者」が立ち上がって元気に歩き出すケースが多数目撃されているという。

障害者の証明書がなくとも年配者の場合、車いすでの優先入館を配慮するパビリオンも多く、「善意の悪用」が常態化している。

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行